

イスラエルのガザ住民皆殺しに抗議

小林寿太郎

皆殺しに全世界から批判

昨年10月に起きたハマスによるイスラエル奇襲をきっかけとしたイスラエル軍のガザ攻撃は、パレスチナ人皆殺しを意図する残虐さで全世界から批判されています。

この戦争はイスラム教とユダヤ教との大昔からの抗争であるという意見もあります。しかしこの辺りを支配していたオスマントルコ帝国の時代、イスラム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒は概ね平和的に共存していました。

第一次世界大戦でオスマントルコ帝国が消滅してからイギリス、フランスなどが自分たちの都合でイラク、シリア、レバノンなどの国々を造りましたが、その土地の住民が自発的に建国したものではありません。

イスラエル建国で故郷を奪われた パレスチナ難民

1947年のイスラエル建国も形式的には国連によるパレスチナ分割決議ですが、歴史の流れから見ると、諸民族による抗争の種をこの地に植え付けておくというヨーロッパの大国の意図があるようです。

イスラエル建国によりパレスチナ人は故郷を奪われ難民となっています。私が20代の頃、カイロにある「死者の町」という墓地を訪れたことがあります。石造りの家屋形の墓があり室内には死者が収まっていますが、故郷を追われたパレスチナ人が墓に死者とともに住みついていた。

またこの戦争がイスラム教とユダヤ教+キリスト教との争いという意見もあります。

しかしイスラエル大使館前の抗議集会で、ガザ出身の女子大生が「ガザにはクリスチャンもたくさんいますが、イスラエル軍はキリスト教

会も爆撃して皆殺しにしている」とスピーチしていました。

心あるユダヤ教徒もパレスチナに連帯

また日本にいるユダヤ人の女子大生も「私たちユダヤ教徒もパレスチナに連帯する」と訴えていました。

宗教や民族の違いを越えて戦争に反対しています。イスラエル大使館前では大使館員が通るたびに「戦争をやめろ」「虐殺をやめろ」と日本語、英語、ヘブライ語で抗議されています。

日本も無関係とはいえません。防衛省はイスラエル製ドローンの導入を検討しています。11月に東京ビッグサイトで国際航空宇宙展が開かれましたが、イスラエル最大の軍需産業エルビット・システムズもドローンを展示していました。

しかしながらイスラエルによる戦争に反対する数名の女子学生が会場に入り、エルビット・システムズのブースの前で抗議のプラカードを掲げて立ちふさがり、ついにブースを閉鎖させるという快挙を演じました。日本の平和と民主主義を守るためにも、戦争をやめさせないといけません。(小林寿太郎)

*旧銀行労働研究会の「ひろば」は、1981年2月1日発行のNo683で、当時のPLO (パレスチナ解放機構)の駐日代表アブドル・ハミード氏へのインタビューを紹介しています。当時の東京労働金庫労組教宣部と「ひろば」編集部による共同編集でした。同労組で教宣部を担当していた小林さんの提案によるインタビューでした。

アブドル・ハミード氏は、イスラエル建国前はユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒が平和に共存していたと説明し、この闘いは人間の尊厳 (Human Dignity) を守り確立する闘いだと強調していました。(田中均)